



JAC Tochigi

発行元 日本山岳会栃木支部 発行元住所 〒321-1262 栃木県日光市平ヶ崎 176-4 渡邊雄二方

2008 年

4 月号【創刊号】

2008(平成 20)年 4 月 1 日発行

# 栃木支部報

目次

p 1. \_\_ 巻頭言

p 2.-6. \_\_ 2007 年度の活動の足跡

p 7.-10. \_\_ 栃木支部設立特集

p 11. \_\_ 支部会員名簿, 事務局より

p 12. \_\_ ちょっと一服, あとがき

# 1号

## 栃木支部報発刊に当たって……巻頭言…… 栃木支部長 日下田 實

昨年 5 月 27 日(日)に会員 33 名をもって発足しました日本山岳会栃木支部は、現在 37 名の会員になりました。この一年間渡邊事務局長をはじめ支部役員の皆様、また関係者の方々の努力により創立記念登山として関東以北の最高峰日光白根の登山をはじめ、事業報告にありますように種々の活動をすすめてまいりました。また栃木支部の発足を契機に、千葉支部、茨城支部が発足し、今まで支部のなかった関東圏に三つの支部が誕生しました。これはこれからの日本山岳会の行く手に明るい光を与えたものと思っております。

御承知のように栃木県は山国であります。日光、那須、あるいは福島県境の山々など本格的な登山でなければ登ることが難しい山もありますし、栃木・茨城県境をなして筑波山まで至る八溝山地の山々、また日光連山の末端に位置する足利北部・佐野北部の山々など、四季折々にトレッキングを満喫しながら歩くことのできる山々もあります

私事にわたりますが、私は今まで狭く深い山登りをして参りました。その延長でマナスルまで行ったわけで、したがって春夏秋冬を問わず穂高界隈の山々をよく知っておりますが、その他の山々はほとんど知っておりません。私も後期高齢者の仲間入りをしまして、体力的にも本格的な山登りは出来ません。支部の仲間の皆様の足手まといにならぬように心がけ、故郷の山々を歩いてみたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

さて日本山岳会は現在公益法人化を目指しておることはご承知の通りであります。将来のことはどうなるかはっきりとしてはおりませんが、当支部とし

ては今後支部の仲間を増やし、千葉、茨城両支部とも協力して支部の活動を活性化させていきたいと思っております。幸いなことに当支部には渡邊事務局長をはじめ高体連登山部に関係している方々が多くおりますので、この方々を通じて高校生に山登りの面白さを教えていただき、当支部の活性化につなげていきたいと考えております。やらなければならないことはたくさんありますが、会員の皆様、高体連登山部、栃木県山岳連盟の方々、その他関係者のご協力を得ながら、急がずに一步一步やっていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

またこのたびは、かねてより待ち望まれていた『栃木支部報』を発刊することになりました。これまで『栃木支部通信』が節目に発刊されておりましたが、活動の総まとめとしての意味あいをもつ機関誌の発刊を検討し、ようやくお手元にお届けするに至りました。各種情報の提供、会員各位からの原稿も幅広く募っておりますので、事務局あてに是非ともご送付下さい。



栃木支部パーティの先頭を行く日下田支部長  
【2007(平成 19)年 8 月 19 日(日), 白根山頂直下にて】

# 2007年度の活動の足跡

## 栃木支部設立総会

日時：2007年5月27日(日)17:00～

場所：宇都宮市『コンセーレ』

参加者：宮下秀樹会長以下本部役員4名

栃木支部会員25名

- 宮下秀樹会長以下本部役員4名のご臨席をいただき、栃木支部の設立総会が開催され、日本山岳会の26番目の支部として正式に発足することになった。総会には入会者33名のうち25名が出席し、引き続き行われた祝賀会では、盛大に祝賀と懇親の宴を楽しむことができた。
- 詳細については、設立総会特集を参照されたい。

## 第1回役員会

日時：2007年7月8日(日)17:00～

場所：宇都宮市『とちぎ青少年センター』

参加者：役員10名中8名

- 設立総会関連、支部会費納入状況、他支部関係等の報告があり、支部設立記念山行(夏山山行)、暑気払い、秋季講演会の打ち合わせを行った。

## 栃木支部設立記念山行(夏山山行)

日時：2007年8月19日(日)

場所：日光白根山(2578m)

参加者：22名(うち非会員3名)

行動概要：丸沼スキー場 Gondola 山麓駅 8:00

集合…山頂駅(2000m地点)8:38, 9:00 発…頂上

11:10…山頂駅で14:00に解散

- 栃木支部を設立しての記念山行である。8:00に丸沼スキー場 Gondola 乗り場(山麓駅)に集合。日下田支部長の挨拶後 Gondola に乗り込み、一気に山頂駅(標高2000m)まで上る。記念写真を撮り、高所に馴れるように長めの休憩をとる。9:00に出発。天気にも恵まれて登山者も多い。11:10 頂上に着く。他のパーティの登山者が山頂直下で転倒負傷したので、本会員の梶谷ドクターが処置をした。山頂を11:40に出発、往路と同じルートで下山し、山頂駅に戻る。そしてここで14:00に解散した。
- 晴天に恵まれ、白根山登山が初めての会員もいたので、大変楽しい支部設立記念山行となった。
- なお、後日、怪我をした方の所属山岳会から口頭で御礼をいただいた。



炎天下を山頂に向かう



白根山頂直下にて記念撮影



Gondola 山頂駅で挨拶をする日下田支部長



Gondola 山頂駅で白根山をバックに記念撮影



## 暑気払い

日時：2007年8月19日(日)17:45～  
場所：宇都宮市『コンセーレ』  
参加者：17名

- 白根山からの帰路は渋滞がひどく、会員の集合が遅れてしまったので、予定の17:00をかなり遅れて開会する。まずは坂口三郎会員から、カラコルム(6～7月)とチベット・カイラス山(7～8月)のトレッキング報告があった。短い時間ではあったが、スライドを交えての話であって、素晴らしい映像にヒマラヤへの想いを楽しく共有することができた。
- その後、宴会場に場所を移して、遅ればせながらの暑気払いのビールパーティとなった。白根山登山で脱水気味の胃袋に、十分にビールをしみこませながら、楽しい時間を過ごすことができた。



トレッキング報告をする坂口三郎会員



報告を傾聴する会員



暑気払いパーティでの近況報告の一幕



## 第2回役員会

日時：2007年10月14日(日)17:00～  
場所：宇都宮市『とちぎ青少年センター』  
参加者：役員10名中8名

- 収支状況、夏山山行、暑気払い等の報告があった。
- 支部自然保護委員に蓮實淳夫会員(10885)を選任し、本部に報告したことが報告された。
- 支部長会議(9月8日～9日)に代理出席した渡邊事務局長より報告があった。
- 沖允人会員が石川支部のインドヒマラヤ遠征に参加するので、後日報告会を依頼することになった。
- 12月1日の年次晚餐会での各支部毎のイベント企画について検討した。山本武志会員に依頼して、栃木の山の写真を展示することになった。
- 11月18日(日)に行われる秋季講演会(講師：神長善次氏)の打ち合わせを行った。
- 2月2日(土)～3日(日)に、3支部(栃木・茨城・千葉)役員懇談会を、本支部が担当して開催するにあたり、その概要についての打ち合わせを行った。またこの行事にからめて、本支部新年会と冬季山行を実施することが了承された。
- 益子ロータリークラブから日下田会員に依頼のあった映画会「マナスルに立つ」を、本支部との共催として、本支部の社会貢献事業として位置づけては、との提案があった。
- 支部のホームページ開設、支部会報の発行を検討することになった。

## 第3回役員会

日時：2007年11月18日(日)12:30～  
場所：宇都宮市『コンセーレ』  
参加者：役員10名中7名

- 秋季講演会に先立って行われた。年次晚餐会の支部企画は山本武志会員の写真展となることが報告され、支部新年会(兼3支部懇談会)の企画を検討した。支部会計中間報告も行われた。支部HPの開設、支部会報の発行についても報告があった。
- 北見正光氏(14475)が入会し、現支部会員が36名になったことが報告された。

## 秋季講演会……『山と里』

日 時：2007年11月18日(日)14:00～15:40  
場 所：宇都宮市『コンセーレ』  
講 師：神長善次氏(烏山出身、元ネパール大使)  
参加者：本支部会員18名の他、コンセーレ生涯学習セミナー生、一般参加者等約100名

- 本支部の公益事業として、会場となったコンセーレとの共催で開催した。本県烏山町(現那須烏山市)出身で、ネパール大使等を歴任された神長善次氏による『山と里』という演題の講演会であった。
- 山と里について、人間の文化にどのような役割をもたらしたかを、文化論的観点から日・欧比較しながら論じ、日本に特有な「里山」の良さを僧翁習合やバッファゾーン(中間)、日本人の文明の原点というアプローチ方法で、興味深くお話しいただいた。
- さらに、私たちがなぜ山へ行くのか、トレッキングの魅力や楽しさについて前述した里山の良さから考察し、霊(気)との遭遇、僧翁習合的出会いへの期待、動植物との触れ合い、文明の基である大地の中での活動等と述べられ、私たちにとって楽しみのつきない人間らしい活動と位置づけられた。
- 神長氏は自らもトレッキングを楽しんでおられ、当日早朝にテレビ朝日で放送された映像(根深誠氏の白神山地・ヒマラヤが内容のもので、神長氏も出演されている)も時折交えて、大変楽しい講演であった。
- 神長氏には大変ご多忙のところ、哲学的で思慮深く、格調の高いご講演をいただき、感謝するばかりである。
- なお講演終了後、『コンセーレ』バンケットホールにて、講師の神長氏を囲んで懇親会を開催した。本支部会員・コンセーレ関係者・神長氏がネパール大使であった時にヒマラヤ登山でお世話になった方々も参加され、総勢37名で楽しいひと時を過ぎた。

## 第4回役員会

日 時：2008年1月27日(日)17:00～  
場 所：宇都宮市『とちぎ青少年センター』  
参加者：役員10名中 名

- 栃木支部新年会(兼3支部懇談会)及び冬季山行の内容を検討した。重廣恒夫氏講演会・春山山行の打ち合わせを行った。
- 東和之氏(14483)が入会し、現支部会員が37名となった。なお同氏に支部自然保護委員を委嘱した。



講師の神長善次氏



多くの方が参加された



懇親会に集った方々



ネパールからもお客さんが来られた



## 栃木支部新年会(兼3支部懇談会) 及び冬季山行

日時：2008年2月2日(土)～3日(日)  
 場所：日光湯元温泉『湯の瑚荘』  
 参加者：本部(宮下会長，神崎副会長)，千葉(篠崎支部長以下7名)，茨城(星笠支部長以下4名)，栃木(日下田支部長以下21名)の34名  
 行動概要  
 2/2(土)：JR 日光駅集合 13:00，『湯の瑚荘』集合 14:00，14:30 懇談会開会，14:40～15:30 記念講演，15:40～17:00 各支部の支部活動について，18:30～懇親会  
 2/3(日)：7:00 朝食，8:30～各班別の山行，12:00～各班ごとに解散

- 日光駅前に集合。支部会員の車に分乗し湯元温泉へ。一面の雪景色で寒い。旅館に到着後，早速大広間で懇談会を開会。日下田支部長，宮下会長の挨拶後，栃木支部会員沖允人氏による記念講演。演題は「ラダック・パンゴン山脈」。映像を交えての昨夏の登山報告であったが，山域がインドのインナーライン地域なので大変興味深いものであった。沖会員は今年も同山域にチャレンジするらしい。その後，各支部からの活動報告をベースに意見交換を行った。3支部とも今年度設立されたばかりで，課題も大きい期待するもの大きい。その後，神崎副会長から会務報告があり，懇談会は閉会。湯元の名湯で身体を温めたあと，山野井副支部長の開会挨拶，坂口監事の乾杯で懇親会が始まる。差し入れの銘酒や地元奥日光の食材を使った美味しい料理で，宴も大いに盛り上がった。その勢いで二次会に突入，長のおしゃべりが続いた。
- 翌朝の新雪 20cm。朝食後，3班【湯元スキー場でのグレンデスキー班，刈込湖への小峠へのスノーハイク班，戦場ヶ原でクロスカントリースキー班】に分かれて活動する。各班ごとに昼頃を目安に無事全日程を終了した。遠来のお客様を迎えて，大変充実した会ができたことに感謝したい。
- 今後の3支部懇談会は，毎年2月の第1土曜を定例とし，来年は2月7日(土)～8日(日)，千葉支部の担当で開催されることになった。



各支部役員の方のごあいさつ



赤ら顔でご満悦の面々



懇談会に集うた面々



こちらの部屋でも大いに盛り上がり

## 重廣恒夫さん講演会 『登山における進化と退化』

日時：2008年3月6日(木)19:00～  
場所：宇都宮市『とちぎ福祉プラザ』  
講師：重廣恒夫氏(日本山岳会関西支部長)  
参加者：本支部会員の他、一般参加の方も含めて  
90名

- 本支部と栃木県山岳連盟との共催による社会貢献事業として開催した。多くの参加者があり、盛況のうちに終了することができた。
- そもそも山登りの原点は小学校2年生で始めた昆虫採集で、さらには中学校2年生の時に『処女峰アンナプルナ』を読んでヒマラヤ登山を夢みるようになった少年時の体験談から講演が始まった。ヨーロッパにおけるヒマラヤ遠征参加の基準である3大北壁を登ることを当面の目標として高校・大学時代は岩登りトレーニングに明け暮れ、しかも必要最小限の装備・食糧しかもたずに山に通ったそうだ。こうした寒さと空腹に耐えての山行により、頼ることができるのは自分の肉体だけであるという信念が培われ、これがヒマラヤ登山にも大いに役立ったという。
- 元来登山装備は安全確保のためのものであったが、最近は快適さも求める方向にかわってきたのは、ご自身が登山用具の開発に携わる仕事ゆえ、以前より注目されていたそうであり、その変化の要因が人間自体にあるのではないかという観点にたつて、特に重廣さんが何度も遠征されているヒマラヤに焦点をあててお話を展開された。
- エベレスト登頂史と15の初登攀ルート、エベレスト登頂者数の変遷、国別登頂者数、日本人の登頂者数、マロリーにまつわる話題等に関して資料を使って分析されたのに続いて、重量と素材から見た登山装備の変遷、国内における登山事故発生原因、遭難者数の年齢分布、中高年の事故の増加、加齢による基礎体力の低下、運動量の減少による身体能力の低下等について話を進められ、登山における進化と退化が顕著になってきた今日、安全登山のために何が必要かを論じられた。特に、国内で起きている中高年の初歩的な要因による遭難事故に力点を置かれて話され、警鐘を鳴らされた。最後には『チャレンジ4000』にも言及された。
- パソコンのプレゼンテーションを使ってのご説明は大変わかりやすく、口調にも氏の暖かい人柄もにじみ出ていて、とても有意義な講演会であった。その後『きらく』伝馬町店にて、有志が講師を囲んで夕食会を開いた。



演台に立つ重廣恒夫さん

## 第5回役員会

日時：2008年3月29日(土)16:00～  
場所：宇都宮市『とちぎ青少年センター』  
参加者：役員10名中7名

- 最初に2008年2月2日(土)～3日(日)の新年会(3支部懇談会)の決算報告があった。収入合計440,000円、支出411,866円、残額28,134円で、残額は支部会計に繰り入れた。ついで支部通信(No.4)を2月28日付けで発行した件、現在手続き中の新会員候補6名についても報告があった。【柏村祐司(川上澄生美術館長)、桑野正光(那珂川町教育長)、稲葉昌弘(矢板岳友会)、麦倉常治(高体連)、猿山浩(栃木山岳会)、後藤尚(高体連)】さらに2008年3月6日(木)の重廣恒夫氏講演会の報告があった。3月30日(日)に益子中央公民館で開催予定の映画会「マナスルに立つ」(益子・茂木ロータリークラブ主催、本支部協賛)の案内もあった。講師は本支部長日下田實氏が務めることになっている。支部会計の中間報告も行われた。
- 本部関係では、2008年2月16日(土)～17日(日)の支部事務局担当者会議の報告(渡邊事務局長出席)、3月22日(土)の第2回通常総会の報告があった。
- 続いて4月12日(土)～13日(日)開催の春山山行の実施内容、5月24日(土)開催の平成20年度支部総会の議事(行事計画・予算案等)を検討した。
- 支部のホームページ開設、支部会報の発行についても進めていくことが確認された。

## 設立趣意書

### ◆◆設立趣意書◆◆

栃木県は、関東地方の東北部、首都東京から60km～160kmの間に位置し、恵まれた地理的条件のもと、首都圏に近いという特性を生かし、農業・工業・商業などがバランスよく成り立ち発展し続けています。

県の北西部は日光国立公園の指定地になっており、百名山に数えられている男体山、白根山、皇海山の名山がそびえ、さらには奥日光、那須高原、塩原渓谷などの四季折々の美しい自然と、鬼怒川・川治・奥鬼怒・塩原・那須などの豊富な温泉群、世界遺産に登録された日光東照宮に代表される日光の歴史的文化施設が一体となって、訪れる人を魅了してやみません。

さて、(社)日本山岳会は支部組織がない各地方について、支部の組織化を推進し、より豊かなクラブライフの送れる体制づくりを進めるよう指導・助言を受けているところです。本県にはまだ支部組織がありませんので、上記したような豊かな地域性を活かし、会員相互の交流を深め、地縁による小集団から生まれる共感と実感を通して、会員一人ひとりが参画できる「楽しい会員の集い」を形成し、豊かなクラブライフを創造しながら、本会の活動の活発化に寄与したいと考えています。

つきましては、栃木県在住等の会員が相集まり、栃木支部を結成したいと存じます。何卒このような趣旨をお汲み取りの上、栃木支部の設立にご同意賜りますようお願い申し上げます。

平成19年3月28日  
(社)日本山岳会栃木支部  
発起人代表 日下田 實

#### 発起人名簿

会員番号	4146	日下田 實	(設立発起人代表)
	4633	山野井 武夫	5346 沖 允人
	6189	小島 守夫	6322 小材 守志
	6956	井上 孝郎	7973 坂口 三郎
	8383	前田 洋子	8432 前田 文彦
	9265	石沢 好文	9267 臼田 徳雄
	9350	山本 武志	10459 千石 富秀
	10885	蓮實 淳夫	7914 渡邊 雄二

(設立発起人事務局)

## 設立総会・祝賀会

日時：2007(平成19)年5月27日(日)

設立総会 17:00～

祝賀会 18:00～

場所：コンセーレ【(財)栃木県青年会館】

### ◆◆設立総会次第◆◆

進行：設立事務局 渡邊 雄二

- 1 開会の言葉 小島 守夫
- 2 設立発起人代表挨拶 日下田 實
- 3 来賓祝辞(社)日本山岳会会長 宮下 秀樹様
- 4 来賓紹介 前田 文彦
- 5 議長選出
- 6 議事
  - 1 報告事項
    - (1) 栃木支部設立までの経過報告
  - 2 協議事項
    - (1) (社)日本山岳会栃木支部規約(案)について
    - (2) 平成19年度支部役員(案)について
    - (3) 平成19年度事業計画(案)について
    - (4) 平成19年度予算(案)について
    - (5) その他
- 7 出席者自己紹介
- 8 閉会の言葉 山本 武志

### ◆◆設立祝賀会次第◆◆

進行：石沢 好文

- 1 開会の言葉 坂口 三郎
- 2 支部長挨拶 副支部長 山野井武夫
- 3 来賓祝辞(社)日本山岳会副会長 神崎 忠男様
- 4 乾杯 (社)日本山岳会常務理事 吉永 英明様
- 5 懇親 (会員によるスピーチ)
- 6 閉会の言葉 沖 允人

## (社)日本山岳会栃木支部規約

### 第1条 (名称)

本支部は「(社)日本山岳会栃木支部」と称し、事務局を事務局長宅に置く。

### 第2条 (組織)

本支部は日本山岳会支部規定に準拠し、栃木県及びその周辺に在住する(社)日本山岳会会員をもって組織する。

### 第3条 (目的及び事業)

本支部は(社)日本山岳会の定款に定める目的を達成するための事業を行う。

### 第4条 (役員)

本支部に次の役員を置く。

支部長 1名 副支部長 1名  
会計監事 2名 委員 若干名  
(事務局長 1名, 会計 1名含む)

### 第5条 (役員を選出及び任期)

役員は支部会員の中から選出し、総会にて承認を受けるものとする。任期は2年とし、再任は妨げない。

### 第6条 (役員の仕事)

1. 支部長は本支部を代表し、会務全般を総括する。
2. 副支部長は、支部長を補佐し、支部長に事故ある時はこれを代行する。
3. 委員は委員会を構成し、総会の決議に従い本支部の活動を企画立案し、会務を処理執行する。
4. 会計監事は支部会計を監査し、総会に報告するほか委員会に出席し意見を述べることができる。

### 第7条 (会議)

本支部には総会及び委員会を置き、総会が本支部の最高議決機関とする。

1. 総会は毎年1回支部長が招集する。ただし、支部長または委員会が必要と認めたときは、臨時に総会を招集することができる。
2. 委員会は必要に応じて支部長が招集する。
3. 議事は出席会員の過半数を持って決定する。

### 第8条 (会計)

1. 本支部の会務執行に要する費用は、会費、支部助成金、その他の収入をもって充てる。
2. 会費は年額2,000円とする。
3. 本支部の経費は、事務局長を代表とする郵便局総合通帳により管理する。

### 第9条 (会計年度)

本支部の会計年度は毎年4月1日より翌年の3月31日までとする。

### 第10条 (規約の変更)

本規約の変更は、総会において出席者の3分の2以上の同意を必要とする。

付 則 本会会則は平成19年5月27日から施行する。

## 栃木支部役員

### ◇◇栃木支部役員◇◇

支部長	日下田 實(4146)
副支部長	山野井 武夫(4633)
委員	小島 守夫(6189)
	渡邊 雄二(7914) (事務局長)
	前田 文彦(8432)
	石沢 好文(9265) (会 計)
	山本 武志(9350)
	神島 仁誓(14438)
会計監事	沖 允人(5346)
	坂口 三郎(7973)

## 平成 19 年度事業計画

### ◇◇平成 19 年度事業計画◇◇

- 1 日本山岳会栃木支部設立総会 H19・05・27(日)
- 2 栃木支部設立記念山行(暑気払い集会) H19・07
- 3 秋季講演会 H19・09
- 4 忘年集会 H19・12
- 5 冬季山行 H20・02

## 平成 19 年度予算

### ◇◇平成 19 年度事業計画◇◇

#### I 収入

(内 訳)	148,500 円
会 費	66,000 円 (@2,000 円×33 人)
助成金	82,500 円 (@2,500 円×33 人)

#### II 支出

(内 訳)	148,500 円
通 信 費	30,000 円 (総会, 委員会, 事業等通信費)
事 業 費	60,000 円 (講演会等の開催費用)
会 議 費	45,000 円 (総会, 委員会等会費等)
消耗品費	13,500 円 (ゴム印, 封筒, 用紙代等)

III 残 額 0 円



## 栃木支部設立までの経過

### H19・01・14(日)：有志懇談会

- 宇都宮市『ホテルサンシャイン』にて有志懇談会(17名)を開催。
- 本部の方針である支部の組織化推進を受けて、本部より平林副会長、吉永常務理事、篠崎委員、栃木県関係有志(日下田以下14名)が出席する。
- 栃木支部設立の準備を進めることを確認した。

### H19・03・28(水)：同意書送付

- (社)日本山岳会「支部設立並びに運営に関する規定」により、関係会員43名に支部設立に関する同意書等を送付し、回答を求めた。

### H19・04・15(日)：回答回収

- 上記同意書の回答結果、支部設立に同意する会員が回答者33名中32名であったので、支部設立の承認申請手続きをすることに決定した。

### H19・04・20(金)：承認申請書等提出

- (社)日本山岳会栃木支部設立の承認に関する書類一式を(社)日本山岳会会長に提出した。
- 支部設立総会通知を関係者に送付した。

### H19・05・09(水)：5月定例理事会

- 本部の5月定例理事会において、栃木支部設立について承認された。

### H19・05・19(土)：第1回通常総会

- 本部の平成19年度第1回通常総会において、栃木支部設立について承認された旨が報告された。

### H19・05・27(日)：栃木支部設立総会

- 栃木支部設立総会・祝賀会開催。

## 設立総会・祝賀会盛大に開催！

- 前述したように、平成19年5月27日(日)午後5時から(社)日本山岳会栃木支部設立総会が、「コンセーレ」にて開催された。当日は好天に恵まれ、汗をかくほどの陽気になり、33名の会員中25名の会員が出席した。本部からも、宮下秀樹会長・神崎忠男副会長・吉永英明常務理事・篠崎仁千葉支部設立委員の4名が足をお運びいただいた。
- まずは小島守夫会員が「1月14日に有志が集まって、支部設立の話し合いをしたのが出発点である」とのコメントを入れた開会の言葉を述べた。
- ついで日下田實会員が設立発起人を代表して挨拶された。「一番番号が若い私が設立発起人ということになっているが、実際には渡邊会員が骨を折られた。関東に支部はなかったが、公益法人問題を契機に、栃木に続いて茨城・千葉にも支部ができる予定である。今後ともご協力をお願いしたい。」
- 4名の来賓を代表して、宮下秀樹会長が「一週間前に会長になったばかりである。栃木には坂口さん、日下田さんなど、本会を支える大物がおられるので頼もしい限りである。支部の中では72周年を迎える関西支部が一番古く、栃木支部は26番目の支部となる。今後とも活発な活動をなされて、本会発展に協力されたい。」と祝辞を述べられた。
- 来賓紹介、祝電披露(平林前副会長・重廣関西支部長からの2通)後、日下田實会員を議長に選出し、支部設立に伴う議事に入った。まずは、設立発起人を代表して、渡邊雄二会員が設立までの経過を報告した。詳細は前述した通りである。
- 規約・役員・事業計画・予算等の協議事項については、満場一致で設立発起人からの原案通りに決議された。
- 最後に出席者が自己紹介をして散会となった。
- その後、場所を移動して午後6時から祝賀会が催された。祝賀会場からは、日光連山から足尾山塊までが一望のもとに見渡せ、折りしも夕日に映える山並みがシルエットに変わろうとする時間帯で、参加者はしばし窓からの景色を楽しむことができた。円卓を囲みながら歓談にふけり、8時過ぎに散会した。



有志懇談会で挨拶する日下田實支部長  
【2007(平成19)年1月14日(日)】



有志懇談会に集い来る面々  
【2007(平成19)年1月14日(日)】



設立総会で役員を紹介する渡邊事務局長  
【2007(平成19)年5月27日(日)】



設立祝賀会での会員及び  
来賓各位の笑顔百態？  
【二〇〇七年五月二十七日(日)  
(平成19年)】

# 支部会員名簿

【2008(平成 20)年 3 月 31 日現在】

No.	会員番号	氏名	備考
1	4146	日下田 實	支部長
2	4255	堀越 利男	
3	4633	山野井 武夫	副支部長
4	4661	森 元一	
5	5201	松井 芳隆	
6	5346	沖 允人	監事
7	5394	田崎 伸一	
8	6189	小島 守夫	委員
9	6322	小材 守志	
10	6956	井上 孝郎	
11	7075	平野 昭夫	
12	7386	柳澤 隼人	
13	7914	渡邊 雄二	事務局長
14	7973	坂口 三郎	監事
15	8383	前田 洋子	
16	8386	牛窪 光政	
17	8432	前田 文彦	委員
18	9265	石沢 好文	委員
19	9267	臼田 徳雄	
20	9307	佐藤 清衛	
21	9350	山本 武志	委員
22	9921	乾 能尚	
23	10416	上田 景子	
24	10459	仙石 富英	
25	10885	蓮實 淳夫	自然保護
26	10909	中村 靖弘	
27	11381	関根 和男	
28	11402	渡辺 剛	
29	12503	菱田 克彦	
30	13906	吉田 春彦	
31	14400	梶谷 博	
32	14419	斎藤 隆	
33	14438	神島 仁誓	委員
34	8282	上野川 孝一	
35	12466	長 百合子	
36	14475	北見 正光	
37	14483	東 和之	自然保護
38	14509	柏村 祐司	(手続き中)
39	14510	桑野 正光	(手続き中)

# 事務局より

●平成 20 年度事業計画概要は次の通りです。詳しくは総会にてお知らせします。

- 春山登山と講演会  
平成 20 年 4 月 12 日(土)～13 日(日)  
那須大丸温泉
- 栃木支部定期総会  
平成 20 年 5 月 24 日(土)  
宇都宮市コンセーレ
- 清掃登山(栃木岳連との共催)  
平成 20 年 7 月 6 日(日)  
奥日光湯元温泉
- 夏山登山の夕べ(映画と講演)  
平成 20 年 7 月 12 日(土)  
宇都宮市コンセーレ  
映画「エベレスト」、講演：羽田栄治氏
- 夏山山行と懇親会  
平成 20 年 8 月 30 日(土)～31 日(日)  
根名草山・奥鬼怒沼  
奥鬼怒温泉郷・加仁湯
- クリーンキャンペーン(栃木岳連との共催)  
平成 20 年 9 月 7 日(日)  
那須岳
- ヒマラヤの集い(シェルパを囲んで)  
平成 20 年 10 月 日( )  
宇都宮市コンセーレ
- 秋山山行  
平成 20 年 10 月 日( )  
未定
- 秋季講演会(登山の文化・環境保全等)  
平成 20 年 11 月 日( )  
宇都宮市コンセーレ
- 新年会(講演会と懇親会)  
未定
- 3 支部懇談会(栃木・茨城・千葉)  
平成 21 年 2 月 7 日(土)～8 日(日)  
千葉県にて

●支部会員名簿は左記の通りです。支部会員には総会資料の中に住所・電話等を掲載した名簿を配布いたします。

●第 5 回役員会の報告にもあるように、柏村・桑野両氏以外に、稲葉昌弘(矢板岳友会)、麦倉常治(高体連)、猿山浩(栃木山岳会)、後藤尚(高体連)の四氏が入会手続き中でありま。



# ちょっと一服！！ ①山は「さん」「せん」「しゃん」？

- 世界で一番高い山はと聞かれて、ちょっと山に関心のある者ならば、ほぼ全ての者がエベレスト(チョモランマ, サガルマータ)と答えるに違いない。実在する山としてはその通りで、あるいは小学生だってそう答えるほどの知識を持つ者も多かるう。
- 仏教の世界観・宇宙観では須弥山(しゅみせん, 妙高山ともいう)が最高峰で、高さ 16 万由旬(ゆじゅん)という。1 由旬は 7km というから、想像を絶する高さということになる。ついでに言うと、この須弥山がのっている大地(金輪, こんりん)の最下層の底を「金輪際(こんりんざい)」というそうだ。
- 寺に行ってお本尊にお参りをすると、たいていの場合、御本尊は宮殿(くうでん)や厨子(ずし)に安置されていて、さらに宮殿は数段高い壇上に置かれている。この壇を須弥壇(しゅみだん)といい、須弥山に由来するものである。
- ところで、この『須弥山』はなんで「しゅみせん」と発音するのであろうか。『須弥山』の別称『妙高山』はなんで「みょうこうさん」なのであろうか。そういえば、山陰地方に『伯耆大山(ほうきだいせん)』とか『氷ノ山(ひょうのせん)』『蒜山(ひるぜん)』『若杉山(わかすぎせん)』とかいった例もある。ちょっと考えてみましょうか。
- 漢字の読み方には音読みと訓読みがある。確かなことは忘れたが、小学校で漢字に触れて最初に教えてもらったと記憶している。
- そのうち、音読みには呉音、漢音、唐宋音、慣用音等があって、漢和辞典にも呉、漢、唐、慣という表記があって、識別できるようになっている。

- 古代の日本には、話し言葉はあっても、それを表記する文字はなかったから、朝鮮半島ないしは直接日本に入ってきた漢字がそれにあてられた。
- 倭の五王の史料にもあるように、日本は魏晋南北朝時代の南朝と朝貢関係にあり、その交流のなかで南朝から日本に伝わった発音が『呉音』と呼ばれることになったと推測されているようだ。おそらくは 5～6 世紀のことであったという。
- ところが、7～8 世紀になって遣唐使や留学僧は、唐王朝の首都である長安で使われていた発音をもち返った。これを『漢音』と読んでいる。奈良・平安朝ではこれを正規のもの(「正音」として、普及させるべく指令を出したという。
- 『漢音』が導入された後も『呉音』は駆逐されずに仏教用語や法律用語として、『漢音』と併用されてきている
- さらに鎌倉時代以降に禅宗僧等が伝えたものを『唐宋音(唐音, 宋音)』という。
- 例えば、「自然」なら漢音では「しぜん」だが、呉音なら「じねん」と発音するし、「明」なら呉音では「みょう」と、漢音では「めい」と、唐宋音では「みん」と読むことになる。日本人は知らず知らずのうちに、数種類の発音を使い分けているのである。
- 前述の『山』についていえば、呉音なら「せん」、漢音なら「さん」と読むので、「しゅみせん」であり「みょうこうさん」なのである。もっとも本家の中国では、天山のごとく「しゃん」という発音に変わってしまったから、日本人のほうで中国語の古い発音を使っていることになるわけである。



## ☆☆☆ あとがき ☆☆☆

- なんとか支部報創刊号を発行することができました。創刊号ゆえ、活動報告と支部設立関連の記事に大部分のページをさきました。会員各位のご批評をいただければ幸いに存じます。
- まだまだ発展途上です。会員の皆様の熱意で、読んで楽しいものに仕上げたいと思います。
- また、楽しい企画のご提案、山行等の寄稿があればどしどしお寄せください。(カミジマ)